

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (東北)	良く なっている	タクシー運転手	お客様の様子	・人が外に出ている。博物館の展覧会にも人が多く集まっており、繁華街もにぎわっている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・円安、株高とアベノミクス効果が声高にいわれているが、商店街個店ではあまり感じられないという声が多い。また、デスティネーションキャンペーンも、効果を期待できる関連店が少ないこともあり、限定的に見られるだけで全体までは波及していない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・消費者の購買動向から3か月前より良くなっている。ただし、電気料金やガソリン、灯油等の値上げ先行で、総体的には一服状態に近い雰囲気でもある。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・1人当たり2.4個程度であった販売量が2.8個と微量ながら増えている。必要なものとその他ちょっと欲しいものを買っている様子が見られるため、景気は良い方向に流れているようである。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	お客様の様子	・2次製品の動きは相変わらず鈍いが、布団の仕立ては注文がある。暖かさとともに押入れの整理をする客が増えているようである。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・数か月前に比べて、海外ブランドのブティック関連の商材が動き出している。また、高額品、特に高級時計なども実際に購買までは至らなくとも下見の客が増えているなど、客の消費行動は少しずつ変化してきているようである。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・輸入品を始めとした高額商品の一部値上げがあり、駆け込み需要など活発な動きが見られ、値上げ後も堅調に推移している。衣料品については低気温が続く低調な動きのため、一部春物のセールを実施し、来店客の買上比率を高めている。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・一時期季節外れの降雪があったものの、全体的に気候も落ち着いてきており、売れるべきものが売れる時期にしっかりと売れてきている。顕著な動きとしては、宝飾品やブランド品といった高額品の売上が前年を大きく上回っている。またここ数回不振であった物産展も久々に好調である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・現状では円安で値上げの商品もあるが、消費全体では単価がアップしているので、買上単価が上がっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数が前年比3%増加に対して、買上点数は7%増と好調である。個人の購買意欲がおう盛になってきている。また、野菜の高値が続くなか、野菜を安定した値段で販売していることが主婦層の来店に繋がっているようである。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前半は来客数前年比も回復している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・雪が解け、異動や転勤も終わり、本格的に人が動き始めてきている。気温上昇とともに来客数も段々と増えてきている。複数店舗を運営しているが全店で来客数が増加している。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・フリー客の購買に関しては、量、単価共に2、3か月前と比べ大きな変化はない。しかし、VIP顧客の買上単価が上がっているため、売上は3か月前よりやや増加している。
		衣料品専門店（総務担当）	単価の動き	・寒暖の差が大きく売上自体は悪いが、単価の高いものが売れるようになってきている。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・電気料金の値上がりをにらんだ省エネタイプのエアコン及び冷蔵庫の動きが活発になってきている。
	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車、ハイブリッド車に引っ張られ、久々に前年超えの販売状況である。しかしながら、店頭で客が戻りつつあるものの、受注面では前年割れの状況が続いている。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車が出ることもあり、代替を我慢していた客が新車に乗り換える動きが活発になってきている。	
	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・ようやく新年度で人の出入りがあり、制服の受注にこぎ着けている。しかし、以前に比べれば新入社員の減少等により確保が難しくなっている。	

その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	販売量の動き	・軽油を中心に、土木建築及び当県特有の除染活動のため消費が伸びてきている。他の地区からの作業員の入込も多く、例年官公庁の年度替りに伴う予算の端境期に落ち込むはずの消費が堅調を保っている。
その他小売 〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・売上高の前年比が3か月前よりも上昇傾向にある。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・株価も上がっており、客の表情も良くなってきている。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・北東北は春の訪れが感じられるようになり、旅行や外食等に積極性が出ている。テレビや雑誌などの情報に敏感に反応し、グループなどで行動を起こしている様子が見られる。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・レストランはまだまだ出足は悪いが、1、2月のようなひどさではなくなってきている。暇なときは相変わらず暇だが、以前に比べて忙しい日が時々あるといった点で、数か月前よりは少し展望が良くなってきている。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今までは花見のシーズンでも客が来ることはなかったが、今年は花見をして、その後に飲んだり食べたりしたいという客が増えている。過去10年においてこういう現象は初めてである。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・今月は年度初めだが、会社関係の団体は少なく、例年の学校関係のオリエンテーションが主要である。ほとんどが小団体、個人客で入込数も伸びない。また、ゴールデンウィークの前半も観光客は少なく、個人客でかろうじて満館となっている。
観光型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・デスティネーションキャンペーンも始まり、ほぼ予想通りの入込である。また、新年度に入り法人からの研修と企画の問い合わせが増えてきている現状があり、少し入込が増える予定である。
観光型旅館（スタッフ）	単価の動き	・平常と比べれば高額となるゴールデンウィーク期間の5月3日と4日は販売単価を下げることなく満室となっている。ただ、宿泊希望日が集中しており、その他のゴールデンウィーク期間やゴールデンウィーク明けの予約については低単価志向が続いている。まずは5月3日、4日の高額商品でも客が買いたければ売れるということがわかっただけでもよしとしたい。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・前年は除染のためにクローズしていた桜の名所が今年はオープンしている。その影響でランチタイムは入客が大幅に増えている。宴会は前年以上に送別会を受注でき、二次会の利用も増加している。
旅行代理店（店長）	お客様の様子	・販売成績が良くなっている。旅行価格に対する要求が薄く、内容重視の傾向が強い。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークや夏休みの申込が伸びてきている。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・各社の給与水準が上向き改善方向にあり、景気にも反映してきている。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・引越しや転勤者の動きが活発で4月上旬から加入者が増えている。特に県外からの転入者が増え、テレビ、インターネット共に新規加入の増加に結び付いている。
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・利用客数が明らかに増加傾向にあり、売上、単価共に3か月前より向上している。
観光名所（職員）	単価の動き	・来客数は減っているが、客の購買意欲はあるようで、単価自体は上がっている。あとは営業次第で来客数が増えれば、売上も伸びてくるかというところである。個人個人の購買意欲は上がっているようである。
美容室（経営者）	単価の動き	・単価的に大きな動きはないが、3か月前との比較で総額はわずかながら上回っている。
美容室（経営者）	来客数の動き	・今月は入学式などで着付けを注文する客が多くなっている。
その他サービス 〔自動車整備業〕（経営者）	来客数の動き	・直前期、前年、前々年のいずれとの比較でも、明らかに来客動向が好転している。
住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・大型店舗の進出や新エネルギー用等の用地確保依頼に伴い、建築工事も順次受注予定にある。
その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	単価の動き	・受付件数は伸びていないが、供給高は伸びている。単価の高い契約を結ぶことができている。

変わらない

商店街（代表者）	お客様の様子	・来客を見ても、景気が良い人と悪い人が混沌としている状態である。
商店街（代表者）	販売量の動き	・客の様子は前年末から楽観ムードが続いており悪くはないが、数字はひとところよりは多少落ち着いてきている。客の気持ちも様子見にシフトしつつあるのではないかというのが今月の印象である。
商店街（代表者）	来客数の動き	・当市においてはアベノミクスの影響もさほどない。良い影響が出るにしてもかなり遅れて出てくるのではないか。
一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	来客数の動き	・店頭販売が伸びない。通常であれば春休みの繁忙期であるが、伸びていない。
一般小売店〔カメラ〕（店長）	販売量の動き	・高額商品及び低価格商品の販売量は横ばいで推移しているものの、来客数は減少傾向である。
百貨店（買付担当）	販売量の動き	・3月の前倒し分の影響が見られる。また、商圏内ではリニューアルオープンを含めて新規出店があり、その影響も受けている。
百貨店（経営者）	来客数の動き	・3月後半はかなり盛り返したが、4月に入り気温が上がらず季節商材が苦戦している。特にアパレル関係の動きが厳しい状況である。食品は逆に健闘している。
スーパー（経営者）	来客数の動き	・来店客は安定しているが、単価を上げられず利益は微減である。
スーパー（経営者）	単価の動き	・今月の1品単価は前年割れしている。前半は曜日の関係や週末の天候不順もあり来客数が減少した。野菜の相場安もあったが、一部加工食品や公共料金の値上げもあり、消費心理に影響したのか売上の伸びは良くない状況となっている。輸入品や油類、小麦なども円安の影響で仕入れ値を圧迫したが、それ以上に低迷する売上対策を続けて強めに打ち出し、何とか前年をクリアしている。ただ収益的には厳しい状況である。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・円安の影響で食品並びに諸物価の値上がりが始まっているが、そのことは一般消費者にはあまり関係はないようである。食品のデフレが更に進行し、競合が厳しくなっている。
スーパー（店長）	お客様の様子	・世の中の景気全体は良くなっていると言われていたが、現状では個人の暮らし向きや収入が変わったとはいえず、個人消費は増えていない。スーパーマーケットの消費者の購買動向は価格やポイントなどの付加価値に左右されるところが大きく、言われているような好景気の影響はないようである。
スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数、販売量共に変わらない状況が続いている。
スーパー（物流担当）	単価の動き	・前年に比べ買上率は上がっているものの、1点単価、客単価の下落傾向が続いている。1点単価の下げは競合状況に対応した特売が主な要因である。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が前年比で2～3%落ちており、その状況は3か月前と変わっていない。
コンビニ（エリア担当）	競争相手の様子	・競争店の出店も現在一段落しており、既存店の売上は変化が無い。来客数及び客単価も特段の変化は無い。
衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・どの業界も異業種の参入が激化し、価格競争に一段と拍車がかかってきている現状がある。また、卸売業と小売業の境界が崩れてきている。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・寒さが続き、なかなか暖かにならないため、陽気に誘われて来店するような日が少ない。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・寒暖の差が激しい3月のような天候が4月まで続き、消費者の購買意欲も上がったり下がったりしている。また、来客数や買上商品内容も不安定な状態が続いている。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・旧材の処分セールを前年より前出しすることにより、売上は改善している。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・少し良い商品や、やや高い商品の販売も見受けられ、単価が持ち直している。白物家電といわれている冷蔵庫や洗濯機、エアコンは好調である。しかし、テレビの不調が響いており、厳しい状態である。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・懸念されたエコカー補助金の反動減を新型車効果で埋めている状況である。
自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・繁忙期のはずなのに仕事量が少ない。仕事量は年々減少している。

住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・客は安い商品を求めているようで、高額の商品がなかなか販売に結び付いていない。景気が上向きとは言い難い。	
その他専門店 [パソコン] (経営者)	来客数の動き	・少量だが見積依頼や問い合わせ件数が増えてきている。しかしながら、スムーズには契約や販売に至っていないのが現状である。	
その他専門店 [酒](経営者)	販売量の動き	・4月は少し動きが出て良くなるのではと期待をしたが、予想以上に静かである。4月に入っても天候が不安定だったこともあり、人の動きが良くない。それに比例するように販売量も伸び悩んでいる。その月その月で良い要因があれば、悪い要因も出てくる。その繰り返しで結局横ばいの状態が続いている。景気が良いという実感は全くない。	
その他専門店 [酒](営業担当)	来客数の動き	・新年度が始まったばかりのところが多いが、飲食店は停滞したままの状況が続いている。店頭での売れ筋の傾向ははっきりしているが、やや動きが悪い。	
高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・収入は増えていない。	
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・特に変わったことはない。	
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・3か月前と比べて事前の予約は少なかったが、当日の予約が結構あり、結果的には3か月前よりやや良くなっている。	
観光型旅館(経営者)	来客数の動き	・中小旅館では客の旅行動向に特に変化は見られない。4月に限って言えば、前半は非常に悪く、後半に持ち直したが、流れといえるほどにはなっていない。	
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・レストラン関係及びデパート地下のデリカ各店については、利用人員が増加し、さらに価格の下落に対して下げ止まり感が出てきている。また、高単価商品やコース料理が売れるようになってきている。	
都市型ホテル (スタッフ)	競争相手の様子	・今月、200室規模の駅直結ハイグレードホテルが新規参入している。通常でも供給過多気味の既存ホテルには脅威となり、ますます苦戦が予想される。一般宴会は年度初めということもあり、ほぼ予算通りを見込める。	
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・被災地特需で宿泊、宴会共に過去まれに見る販売数が2年ほど続いていたが、今月は来客数、売上共に前年を下回っている。来月以降3か月先までの予約状況も前年を下回っている。	
タクシー運転手	お客様の様子	・低料金の車を探して乗る客が増えている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・公共交通機関が動いている間はまずまずだが、終了すると客足はぱたっとなくなる。	
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・ニュース等では景気が上向きとの情報が流れるが、スーパー等の物価が上昇している。また、中小企業の給与等は下向き傾向にあり、節約生活が続いている。	
通信会社(営業担当)	来客数の動き	・来客数は前月に比べて大分減ってはいるものの、落ち幅は前年と比べて少ない。	
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・法人企業を回って様子を聞くが、景気上昇の話はほとんど聞こえない。	
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・客の設備投資意欲に関しては、特に悪化も好転もしていない。	
通信会社(営業担当)	お客様の様子	・報道で見聞きするような好況感はない。設備投資面でも積極投資の話は聞かない。円安効果も身近にはない。	
観光名所(職員)	来客数の動き	・大きなイベント等がないと来客数が少ないという状況が継続中である。	
設計事務所(経営者)	来客数の動き	・仕事の量、忙しさは変わらない状況が続いている。内容は住宅がほとんどである。	
やや悪くなっている	一般小売店 [酒](経営者)	販売量の動き	・暇な日が多くなっている。
	一般小売店[医薬品](経営者)	来客数の動き	・落ち込みの大きかった2月に比べるとやや持ち直してきている。しかし、前年秋から今年1月まで続いた業績改善の水準には戻っていない。前年同月比ではほぼ同水準であり、結局震災後のすう勢は、方向性なく一進一退というところである。客単価はあまり変化が無く、来客数により業績が左右されている。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・気温が低く春の兆しが遅いなか、消費マインドは低下している。来客数、客単価が前年を下回り、必要なものだけ購入する傾向がより一層顕著となっている。

百貨店（経営者）	お客様の様子	・ここ数か月前年を上回るなど景気が上向きとなっていたが、季節外れの降雪により今月は一気に景気が下向きになっている。一部で上質な商品を求める傾向はあるものの、絶対数の多い中間層の来客数減が全体を補えなくなっている。	
スーパー（店長）	販売量の動き	・商圈内でチェーン店の新店舗がオープンしたことで、オープン協賛企画チラシ、また競合店の対抗チラシ合戦があり、来客数や買上点数が減少しているため、業績に影響が出ている。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年よりも低温、悪天候である影響もあるが、週末の人の動きが少ない。	
コンビニ（店長）	お客様の様子	・景気が良くなっているというニュースも聞かれるが、市内のビジネスマンの様子を見ても全く実感がなく、良いという話だけが聞こえてくるためあせりのようなものが見られる。客の機嫌が良くないというか、いらいらしている様子が見受けられる。また、価格にかなり敏感になっており、デフレ感が出てきているようである。	
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・今までは震災特需でスーツや礼服が非常に売れていたが、さすがに一巡、二巡してくると、買換え需要は行き届いたということか、スーツやフォーマルの買換えや購入は少し落ちている。また、今月は気温がなかなか上がらず、春物に移行するタイミングがずれ苦戦している。	
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・天候不順により、春物の売上が伸びない。	
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・前月に比べ、今月の客はあまり急いでいない。また、車種が絞られすぎていない傾向がみられ、商談に時間が掛かり過ぎている。3月までと同じ売り方では通用しない例が多々ある。	
乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・販売数は前年比80%前後を推移している。良い期末を迎えられた一部の業種で代替や増車があるものの、低下している新車需要を若干底上げしただけにとどまる。アベノミクス効果もまだ現実味が無い。	
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・来客数の前年比での減少が続いている。新聞などで報道されているような高額品を含んだ売上増加などは地方ではみられない。	
住関連専門店（経営者）	単価の動き	・年明け後、消費者の消費行動は大分持ち直してきたようだが、2月以降は前年の半分以下の販売量で落ち着いている。	
その他専門店【靴】（従業員）	販売量の動き	・中旬までは気温が例年より高く推移し、春物商材やスニーカーが好調だったが、後半は雨で低温の日が多く、ゴールデンウィークに向けての販促効果が出ていない。	
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・中央の人は景気が上向きになっているようだが、地元では大きな会社でもまだ動きは大きく変わらないようで、来店しても景気が良いという話は聞けない。中央と地方の格差が大きく開き過ぎている。	
都市型ホテル（スタッフ）	それ以外	・忘年会や新年会の受注は大きく増加し良い流れであったが、2、3月の大雪がすべて台無しにしてゼロ以下に戻してしまっている。客はまずは身の回りの雪を片づけなければならず外を出歩けない。観光客もまだあのような状況かと当地を敬遠するということで、悪循環に陥っている。	
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・円安が急激に進み、海外旅行の収益性がかなり悪くなってきている。また、3か月前と比べ、販売量が落ち込んできている。	
遊園地（経営者）	来客数の動き	・日曜日が前年より1回少ないうえに、3回のうち2回が雪や雨となり、来客数が前年を約20%下回っている。月末のゴールデンウィークに期待しているが、前年も良かったので、ばん回には至らない。	
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・アベノミクスとは無縁で、お金が回っていない。
	一般小売店【医薬品】（経営者）	来客数の動き	・4月は新入社員の歓迎会などで人の集まりが多い月のはずだが、毎週金曜日と土曜日を除いて、繁華街はひっそりとしている。久しぶりに来店した客も驚くほどの静けさである。

		百貨店（売場担当）	来客数の動き	・ 当地の気温は4月に入ってから非常に寒く、例年より5～10度は低い日が後半まで続き、来客数に大きく影響している。ゴールデンウィークに入っても、前年は20度を超える気温であったことに対し、最高気温が15度前後の日が続き初夏物の動きが鈍化している。売れ筋はコートで前年比150%を超える週が3週間続くなどしていたが、本来この時期に売れるセーターやカットソーといった洋品が前年の70%といったように大苦戦している。客の来店も落ちているうえ、来店した客が買っていないというデータも出ており、この気温により、初夏物に目が行かない様子がうかがえる。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ 今月は地元から出て行く人がかなり多かったようで、かなり悪くなっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・ 競合店出店による来客数の減少で、売上が前年比約20%落ちている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・ 光熱費の値上げ、消費税率の増税等を控え、先行きの不安が買物を慎重にさせている。
企業動向関連 (東北)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		農林水産業（従業者）	それ以外	・ 前年の果物による収入は風評被害により震災前の7割程度であったが、賠償請求をしているので、前倒しをして農機具などを買換える農家も散見される。
		繊維工業（経営者）	それ以外	・ 円安株高等の効果が大手企業などでは出ており、何となく景気が良くなっているような雰囲気がある。
		木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 住宅部材の需要と供給が安定し、収益的にも改善されている。
		建設業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・ 官庁工事の出件数が増え、土木工事の受注量が増加している。
		金融業（広報担当）	取引先の様子	・ 売上が増加している。
		広告業協会（役員）	それ以外	・ ゴールデンウィークを前に住宅展示場が一斉にリニューアルオープンする。住宅メーカーは震災復興はこれからと見ており、各社が積極的に展示場をリニューアルし活用しようとしている。
		広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・ ネット選挙解禁により、その関連の仕事の相談が増え始めている。スマートフォンを含めたWebの制作物の仕事は堅調である。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・ 車で土産物を販売している会社では、単価上昇の割合が増えている。
		司法書士	取引先の様子	・ 分譲地の売買が好調であり、登記所の申請件数も増加している。
		その他非製造業 [飲食料品卸売業]（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 受注量、販売量共に前年比で約7%伸びている。非常に良い傾向である。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 特に理由は無いがここしばらく売上が前年比110%となっている。前年も立派な実績であったなかでの数字なので、景気そのものは順調に良い方向に向かっていく。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 今月からDESTINATIONキャンペーンがスタートしている。出だしはあまり良くなかったが2週目より動きが良くなってきている。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 日銀の対策で景気向上の兆しはみられるが、最終消費者までは届いていないようである。受注量は前年同期と比べて増加していない。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・ 生産量、販売額のデータはほぼ横ばいである。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 今年に入ってから、売上が前年と比べ若干減ってきている。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・ ここ3か月間の売上は前年比横ばいとなっている。
		土石製品製造販売（従業員）	競争相手の様子	・ 同業者との会合において、前年度からの予算と実績からも、低予算の復興事業の工事がほとんどであるとのこと。しばらくは復興計画で利益を伴う発注はなさそうである。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 自動車部品については、海外現地法人向けの輸出を除いて大きな変化は無い。
		電気機械器具製造業（営業担当）	取引先の様子	・ 前回から見て悪い状態のままで特に変化していない。

	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・マスコミ等が景気は良くなりつつあるといているが、地方では実感が無い。ただ、地方公共団体の工事は増えている。	
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・年度初めであるため、中央企業向けの大型公共工事の発注はまだ本格化していない状況である。	
	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・環境に大きな変化は無い。	
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・大型案件が明らかに減少しており、前年度を下回っている状況にある。	
	通信業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・株価の上昇、円安の進行等で景況感は上向きかもしれないが、中小企業においてはまだメリットが見られない。	
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・拡大路線に走る企業も増えておらず、円安やアベノミクスの効果は全く見られない。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・介護施設の新増設の動きが目立つ。また、メガソーラー関連の需要もある。	
	公認会計士	取引先の様子	・クライアントの月次、決算状況を見ると、ここ2～3か月は落ち着いている状況で、良くもなく、悪くもない状況が続いている。	
	コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大口の受注は皆無に等しく、毎日の少額の積み上げ受注で売上を形成しているような状態である。	
	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク向け出荷については、前年との日程差はあるものの、継続して安定した出荷が続いている。春の歓送迎シーズンでもあり、飲食店向けが堅調に動いている。	
	その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	取引先の様子	・出入業者の数は変化が無い。また、取引先の小売業者の話聞いても、受注数に変化は無いとのことである。	
	やや悪くなっている	農林水産業（従業員）	それ以外	・当地の周辺では、今年度に入って農業をやめる農家が多く始めており、農業で生計を立てていくことの難しさが改めて浮き彫りになっている。加えて、TPPが予断を許さない状況になっていることも、その傾向に拍車をかけているようである。
	悪くなっている	その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・顧客である公益事業者の原価算定基準の見直しによる大幅な予算削減の影響をものに受けている。
雇用関連	良くなっている			
(東北)	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・当県に拠点を持たない企業からの問い合わせが強くなってきている。新たにコールセンターなどを開設する動きもあり、求職者の減少と逆行するような求人側の強い引き合いがある。
		人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・事務、営業、販売職、コールセンターオペレーター等の求人依頼が増加している。
		アウトソーシング企業（社員）	それ以外	・受注件数が例年と比べて増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新規求人数は微増だが増えつつある。ただ、被災地雇用が主流のため、短期が多く、正社員は少なくなっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	雇用形態の様子	・募集広告の申込件数が増えてきている。今まで建設業や介護関連に集中していた業種も、多業種へ広がりを見せている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・ここ数年は設備投資や従業員の増員を控えてきたが、円安とデフレ脱却への期待感により受注の拡大が見込まれるため、設備投資と採用計画を行っているという工作機械部品製造業の話があった。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	それ以外	・新卒採用企業の内定出しの辞退者が増加していることから、複数内定をもらっている学生が増加している。企業の採用の意欲は向上していると推測される。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・年度末は一時的な期末予算消化景気もあったが、現在は経済が本当に良い方向へ向かっているのか様子を見ているようであり、広告出稿などは鈍い。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人数及び有効求人倍率は、前年同月より増加したものの、前月よりは減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月より減少しているものの、依然として高水準で推移している。また、新規求職者の減少傾向も続いており、ここ数か月と状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年比で増加を続けていた新規求人が、建設業、製造業、医療福祉、サービス業を含め減少に転じ、有効求人倍率が低下している。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数はここ数か月、約3000～3500で推移している。また、有効求人数はここ数か月、9000～9500で推移しているため、3か月前と比べて大きな変化は無い。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同月と比較すると、新規求職者数は1けたの減少だが、新規求人数は2けたの減少となっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人倍率は引き続き改善されているが、景気の好調さを実感する感覚はない。
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・年度末を控えて需要増加があったものの、求職者である新規登録者は前年比で2割近い減少が続いているため、成約率も減少している。3か月前と比べてやや悪くなっている。
悪くなっている	-	-	-